

長野陸協 会報

JAAF NAGANO
NAGANO Amateur Athletics Association

■長野陸協 会報

第 **159** 号 平成 29 年 3 月 31 日

発行所 (一財) 長野陸上競技協会

発行人 内山了治

編集人 葛城光一 内山良一

U R L : <http://nagano-rk.com/>

E-mail : info07@nagano-rk.com

第8代会長 萩原 清氏 就任



長野陸上競技協会は、平成 29 年 2 月 4 日に開催した評議員会、理事会において、新理事（会長）に長野県議会議員の萩原清氏を選出し、萩原氏が第 8 代長野陸上競技協会会長に就任した。

第 22 回都道府県対抗男子駅伝競走大会で、7 度目の優勝。
写真はアンカーの上野裕一郎選手
(DeNA ランニングクラブ)

写真提供：信濃毎日新聞社

V 奪回 7 回目の 優勝

都道府県対抗男子駅伝



目 次

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| ① 第八代会長就任、第22回都道府県対抗男子駅伝優勝 | ⑨ 日本陸連栄章、長野県表彰受賞者 |
| ② 新会長挨拶、新年度に向けて | ⑩ 都道府県対抗男子駅伝優勝祝賀会 |
| ③ 第22回都道府県対抗男子駅伝 優勝 | ⑪ 2017年度競技規則改正のポイント |
| ⑤ 第35回都道府県対抗女子駅伝 10位 | ⑫ 主要大会競技結果 |
| ⑥ 男子第67回 女子第28回全国高校駅伝競走大会結果報告 | ⑫ 長野陸協会議録 |
| ⑦ 第24回全国中学駅伝競走大会結果報告 | ⑫ 連絡、お悔やみ、編集後記 |
| ⑧ 新会長就任式・2016長野陸協アワード | |

挨拶 新会長 萩原 清

平成 29 年 2 月 4 日に開催された長野陸上競技協会評議員会、理事会において、前小坂憲次会長の後を受け、8 代目会長（代表理事）に選任され就任をいたしました。

誠に光栄に存じますとともに、職責の重さに身の引き締まる思いがいたします。

前小坂憲次会長には、本県の陸上競技界の発展のためにご尽力していただいておりますが、突然、お亡くなり非常に残念であり、その多大な功績に敬意を申し上げます次第です。

私も高校時代に陸上競技部に所属しておりましたが、今もって陸上競技には大いに関心があり、この度お話があったことも、何かのご縁かと引き受けさせていただきました。

少子高齢化社会の中で生活の多様化が進み、体育・スポーツの分野でもスポーツ人口の減少傾向となっております。一方、生涯スポーツの振興、体力づくり、運動機能の維持・強化など県民の皆様からの要望も多岐にわたっており、それを受け陸上競技部門にも課題は沢山あると認識しております。

県議会議員になった現在でもスポーツの振興は、私のライフワークになっておりますので、皆さんと共に課題克服のために頑張っている所存です。

当協会は、県内スポーツ団体の中でも大きな競技団体であり、オリンピックや国内主要競技会などに多くの選手を輩出しております。

これも、永きに渡って受け継がれてきた伝統を踏襲す

<プロフィール> 昭和 26 年 1 月生まれ

現 職 長野県体育協会副会長
長野県議会スポーツ振興議連会長
長野県サイクリング協会会長
長野県合気道連合会会長
長野県動物愛護会会長
出 身 本郷小学校、女鳥羽中学校、松本深志高等学校
明治大学商学部
競技歴 第 22 回国民体育大会（1967 年埼玉県上尾市）
少年やり投 第 4 位入賞他
経 歴 衆議院議員 塩島 大元秘書
昭和 62 年 4 月 松本市議会議員に 36 歳で当選
平成 3 年 4 月 長野県議会議員に初当選、その後
7 期連続当選、現在に至る
学校法人外語学園理事長

るなかで、日頃の選手・指導者の強化や育成の成果でありますので、引き続き、一層の強化・育成に励む所存であります。

国体については、阿部知事が 2 月定例県議会において平成 39 年の招致を表明されました。

私ども競技団体としても全面的に支援し、その実現に向け活動を進める考えであります。特に施設の充実は重要なことですので関係の皆様と連携をとって整備の促進を図ってまいります。

最後になりますが、私一人で全てのことが出来るわけではございません。協会の皆様方と共に素晴らしい協会にして参る所存ですので、暖かいご支援、ご協力を賜るようお願いいたします。

新年度に向けて 理事長 内山 了治

2016 年度は、長野陸協創立 70 周年の年にふさわしく、第 100 回日本選手権大会混成競技及びレセプション、第 43 回全日本中学をはじめとする各種大会、荒井選手リオオリンピック 50km 競歩銅メダル獲得祝賀会、創立 70 周年記念事業・祝賀会、そして本年の第 22 回都道府県男子対抗駅伝優勝祝賀会などの事業実施等々、本当に時間に追われる毎日でした。これらを滞り無く遂行できましたのも理事の皆様方の努力、会員の皆様のご協力そしてご協賛頂いております皆様方のご支援の賜です。心から御礼申し上げます。唯一、故小坂前会長の訃報には深い悲しみに包まれ、未だにそれらは拭い切れておりません。改めまして皆様と共にご冥福をご祈念申し上げます。

協会運営につきましては、上記大会・事業と通常業務に事務局・理事が総動員で対応しましたが、不行き届きな点が多々あり、厳しいご指摘・ご意見・ご提案を頂きました。今後に生かす所存です。同時にボランティアの限界、過去の役員のご尽力に敬意を表する次第です。

2017 年度は 2 巡目国体に向けた様々な準備を進めなければなりません。10 年はあつという間です。それに対し

て競技者育成、審判員養成と審判技術向上等は時間を要します。以下に項目を列挙しますので、ご理解を頂き、皆様方のご指導ご協力をお願い申し上げます。

1. 競技者育成・指導者充実（資質向上）（セットです）
2. 審判員増加（国体は 450 名必要です、現審判員数 850 名）
S 級審判員は長く、A 級へは大勢の方が、競技者は審判員資格取得を是非お願いします。（登録料改定）
3. 女性審判員の増加（総務委員会女性部新設）
4. 陸協財政の黒字化とこれまでの見直し（H28 年度は黒字見通しですが、過去の原因を徹底究明・分析・改善する）
5. 長野陸協創立 70 周年記念事業（記念大会：長野県選手権、長野陸協 70 周年史発行）
6. 役員改選期（5 月末）ですが、事業年度は 4 月からスタートのため、次の新役員が担当します。（敬称略）
新理事（副会長）：小口 眞喜也、木戸岡 和孝、細田 完二、業務執行理事（副理事長）：森 安夫、杉崎 憲雄、新理事：小松 茂美、小川 裕樹（経理部長）、芳川 千恵（女性部長）、横川 佐知雄（道路競技部長）、篠原 克修（普及部長）、細田 健司（高体連代表）。

併任：酒井 剛（ジュニア部長兼務・中体連代表）

以上、よろしくお願い致します。

天皇盃 第 22 回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 in 広島



V7 達成



写真左：表彰式、優勝インタビュー 高見澤監督・上野選手

団 長 長野陸協副会長 伊藤 利博

監 督 高見澤 勝

3 年振り 7 回目の優勝を果たすことが出来ました。

天皇杯を再び長野県に持ち帰る事が出来た事は大変嬉しく思います。この駅伝を支えて頂いている多くの皆様の思いが、こうして実を結び改めて皆様方に感謝申し上げます。全国都道府県駅伝大会は、今年で 22 回の歴史を数えました。その内優勝 7 回、準優勝 2 回、入賞 8 回の戦績を見た時、名実ともに「駅伝王国長野」の称号にふさわしい快挙でありました。実に嬉しい限りです。

ここまで成長する事が出来たのも、長野陸協を支えてきた歴代の役員、監督、コーチ、選手たちの血のにじむような努力があった事も忘れてはならない事だと思っています。この駅伝の特徴は、三部門からの選手選考になっており、中学生、高校生、大学一般と、どの部門の強化をおろそかにしても勝てません。そして全ての分野の選手が揃わないと優勝や入賞は見えてきません。

その点、我がチーム長野は、中学生は中体連の先生方の熱い指導、高校生は佐久長聖の高見澤監督の手腕で、大学生一般は佐久長聖の卒業生が中心になって、全ての車輪が噛み合い回っているところが、チーム長野の強みだと思います。そして、選手たちを取り巻く長野陸協の支援コーチのサポート、在広島信州県人会の皆様の温かいおもてなしと熱い応援が、どれ程選手達の背中を後押ししてくれるエネルギーの源になっていることか。こうしてチーム長野を応援して下さる皆様方のご支援ご協力があるからこそ、どこの県も成し遂げる事の出来なかった V7 に輝く事が出来たと思っています。

今年もこうして優勝の瞬間に立ち会うことができたのも、監督、コーチ、選手達のお陰であり、改めて感謝の気持ちを申し上げ、報告とさせていただきます。

今大会を迎えるにあたって、「優勝」を意識するのではなく、「上野裕一郎にゴールテープを切ってもらおう」という言葉を合宿中に何度も言ってきました。上野自身、今回の出走が 10 回目という記念すべき大会だったので、中高生の憧れの存在であり、この男子駅伝で長野県チームに何度も貢献してくれている上野に、最高の思い出を作ってもらいたいと思って、合言葉にしていました。



1 区スタート 中谷選手 No.17

今回の優勝という結果において、中学生の走りが大きかったと感じています。本来は、中学生エースの木村暁仁君（女鳥羽中）が出場予定でしたが、脚の怪我のため出場できませんでした。しかし、2 区の石川晃大君（墨坂中）と 6 区の眞田稜生君（上田第四中）が、全国という大舞台にもかかわらず、力を出し切ってくれました。上野先輩にゴールテープを切ってもらいたいという思いが、選手たちの力になったと思いますし、牛山通高先生（高社中）をはじめとする中学生担当の先生方のきめ細かな指導や指示の成果だと思います。

そして、多くの方々の支えがあったことが一番の勝因です。まさに「チーム長野」で勝ち取った勝利です。

今回の優勝で大会最多の優勝を更新し、「駅伝王国長野」を印象付けることができました。今後もこの伝統が続くよう、「チーム長野」として皆様方と頑張っていきたいと思いますので、ご支援、ご声援よろしくお願いいたします。



左から 原山隆一教育長、小林計夫会長、在広島信州県人会の皆様 1月22日在広島信州県人会主催 「優勝祝賀会」にて

7本目のゴールテープ獲得 コーチ 牛山 通高

年度の最後に行われるこの駅伝でベストで戦うには、三つのハードルがあります。第1ハードルは、各駅伝でけがをしなかったか。第2ハードルは、インフルエンザ・感染性腸炎にかからなかったか。第3ハードルは、広島を目指して練習が積めているかです。各駅伝を、チームの主力選手としてピークを合わせて全力で走ります。自己ベストを出したとき、けがが発生しやすいのはご存じのとおりです。また、ベストを尽くして体力を消耗し、免疫力も下がっています。今回は、二人の故障でしたが、過去には多くの失敗がありました。ランキングに現れない戦力の変化です。今回は、一週間前の甲府合宿は優勝をねらう状態でした。「チーム長野」の結束です。一人ひとりの目標が、タイム・心構えともに明確に定まりました。高見澤勝監督のチーム作りのうまさです。

「中学生の強化が、男子駅伝を支える」とは、いわれ続けた言葉です。中学生の強化とは、一般まで走り続けられる選手を育成しようという意味です。中学生は、一緒に合宿を過ごした高校生が京都で大活躍し、テレビで見た一般が加わり、「自分のことを精一杯やれば優勝できる」と先輩たちを信頼しました。「抜かれることは怖くない。自己のベストを尽くして、ラストスパートをかけ先輩にたすきを渡す」との意気込みでした。皆様の応援のおかげで7本目のゴールテープを持ち帰ることができました。ありがとうございました。

選手氏名	所 属	
上野 裕一郎	DeNAランニングクラブ	
春日 千速	東海大学 3年	
關 颯人	東海大学 1年	
名取 燎太	佐久長聖高校	3年
中谷 雄飛	佐久長聖高校	2年
本間 敬大	佐久長聖高校	2年
松崎 咲人	佐久長聖高校	1年
木村 暁仁	女鳥羽中学校	3年
石川 晃大	墨坂中学校	3年
眞田 稜生	上田第四中学校	3年
越 陽汰	川中島中学校	2年
スタッフ	氏 名	長野陸協役職
団 長	伊藤 利博	副会長
副団長	下川 泰秀	副会長
副団長	内山 了治	理事長
監 督	高見澤 勝	普及強化コーチ
コーチ	牛山 通高	駅伝部コーチ
コーチ	帯刀 秀幸	駅伝部コーチ
支援コーチ	玉城 良二	副理事長
	藤森 要	普及強化委員長
	名取 和訓	普及強化部長
	北島 正孝	駅伝部長
	三代澤芳男	強化部コーチ
	今村 善紀	駅伝部コーチ
トレーナー	杉山 史良	駅伝部コーチ
	秋山 友彦	賛助会員

天皇盃 第22回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 各選手のコメント

1区 中谷雄飛 (佐久長聖高校2年) チームで優勝を目標にしていたので、達成できて嬉しいです。個人として課題の残るレースだったので、しっかりと経験を次につなげていきたいです。	2区 石川晃大 (墨坂中学校3年) 自分のペースで走り抜けることができて、ホッとしました。最後、400mから切り替えることができました。また、広島で走れるよう努力します。	3区 春日千速 (東海大学3年) 優勝チームの一員として走らせて頂いたことに感謝しています。今後、長野県チームの力になれるよう精進します。	4区 本間敬大 (佐久長聖高校2年) 今回はチームの目標であった優勝をすることができて、とても嬉しいです。来年も優勝できるように、しっかりと練習をしていきます。
5区 名取燎太 (佐久長聖高校3年) 個人としてはまだまだ課題の残るレースとなりましたが、チーム長野として優勝することができてとても嬉しいです。	6区 眞田稜生 (上田第四中学校3年) 「力んだらだめ」と自分に言い聞かせて走りました。スピードには自信があるのでラストはしっかり追えました。この経験を全国高校大会や広島につなげたい。	7区 上野裕一郎 (DeNAランニングクラブ) 今回10回目の出場をさせていただき、3回目のゴールテープを切らせていただきました。レース前からチームのみんなが、私にゴールテープを切ってもらいたいという気持ちを持ち、レースに挑んでくれたことにとても感謝しています。広島の都道府県対抗男子駅伝の長野チームに、ずっと育てられた気がします。感謝を忘れず、これからも長野県に貢献していけたらと思います。	

区間(距離km)	第1区(7.0)	第2区(3.0)	第3区(8.5)	第4区(5.0)	第5区(8.5)	第6区(3.0)	第7区(13.0)
選手名	中谷 雄飛	石川 晃大	春日 千速	本間 敬大	名取 燎太	眞田 稜生	上野 裕一郎
チーム順位・記録	2 20分17秒	7 29分09秒	4 53分38秒	1 1:08分03秒	1 1:32分22秒	2 1:41分20秒	1 2:19分09秒
区間順位・記録	2 20分17秒	23 8分52秒	8 24分29秒	1 14分25秒	1 24分19秒	20 8分58秒	2 37分49秒
区間最高記録	20分14秒	新 8分20秒	24分23秒	14分25秒	24分19秒	新 8分29秒	37分43秒
Top通過チーム	三重	京都	愛知	長野	長野	福岡	長野
同記録	20分14秒	28分56秒	53分34秒	1:08分03秒	1:32分22秒	1:41分18秒	2:19分09秒

第 35 回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 in 京都 2017. 1. 15

団 長 長野陸協副会長 中條 延太郎

第 35 回全国女子駅伝チームの団長として、参加させて頂きありがとうございました。八位入賞という目標に向って全員が心を一つに冷たい猛吹雪の中、粘り強く耐え抜き力走した結果、昨年より順位を四つ上げ 10 位（2 時間 19 分 32 秒）という素晴らしい成績を収めることができました。強い冬型の気圧配置の影響の中、この冬一番という寒波（マイナス 2.7 度・積雪 14 cm）という最悪の気象条件で実施が危ぶまれた中での開催でしたが、1 区の松澤さんが混戦状態から粘り、力強い走りでも 2 区の和田さんへ繋ぎ、見事な走りでも 10 人抜きの 3 位に押し上げてくれました。3 区中学生の小原さんからは降りしきる雪の中のレースとなり、次の 4 区細田さんは懸命な走りでも区間 7 位と健闘してくれました。さらに、5 区の佐々木さんは、さすが主将の意地をみせ、区間 2 位という素晴らしい力走でも 6 区小林さんへと襷を繋げてくれました。この頃になると吹雪が最も強くなってきました。強い気持ちでチームを再度 3 位にまで押し上げ 7 区の村上さんへと引き継がれました。冷たい雪が容赦なく降りかかり、8 区中学生の高松さんはそんな中でも、長野県の雪に強い走りでも区間トップの記録でも 9 区アンカー玉城さんの待つ中継所に飛び込んできてくれました。最終区間は五輪代表をはじめ、国際大会で活躍した日本

トップレベルが集結する中、最後まで攻める走り続け 10 位でフィニッシュしてくれました。全選手が入賞にせまる力走ぶりは、今年こそ必ずや入賞できることと確信してするものでした。天候が急変する悪条件の中で、序



雪の中宿舎出発

盤から順位が目まぐるしく変わる激しいレース展開、一時は選手が見えなくなるような猛吹雪という過酷な天候でしたが、地元の京都が 2 秒差（2 時間 17 分 45 秒）で逃げ切り優勝、2 位岡山、3 位千葉という結果となりました。それにしても本大会が開催できた裏には、除雪や沿道整備など、自衛隊の皆様や関係機関のボランティアの献身的な奮闘



8 区 区間賞の高松さん

があったからこそその記憶に残る大会になったと思います。

終わりに選手の皆さんはもとより、玉城監督をはじめ、コーチ・トレーナーの皆さんが心を一つに、私生活をも顧みず本気に取り組んで頂いた賜と、深く敬意を表し心から感謝と御礼を申し上げます。また、保護者の皆様をはじめ、多くの関係各位の皆様方に衷心より感謝と御礼を申し上げます。有り難うございました。

選手氏名	所 属
佐々木 文華	第一生命
細田 あい	日本体育大学 3 年
玉城 かな	名城大学 2 年
小口 雪音	大東文化大学 2 年
岡村 未歩	長野東高校 3 年
村上 愛華	長野東高校 3 年
和田 有菜	長野東高校 2 年
松澤 綾音	長野東高校 2 年
高安 結衣	長野東高校 1 年
小林 成美	長野東高校 1 年
高松 いずみ	開田中学 3 年
小山 莉那	菅野中学 3 年
小原 茉莉	赤穂中学 3 年
千葉 麻里子	飯田西中学 2 年

区間(距離km)	第 1 区(6.0)		第 2 区(4.0)		第 3 区(3.0)		第 4 区(4.0)	
選手名	松澤 綾音		和田 有菜		小原 茉莉		細田 あい	
チーム順位・記録	16	19分56秒	6	32分30秒	13	42分25秒	9	55分47秒
区間順位・記録	16	19分56秒	3	12分34秒	24	9分55秒	7	13分22秒
区間最高記録	19分27秒		12分32秒		9分23秒		12分47秒	
Top通過チーム	埼玉		京都		京都		長崎	
同記録	19分27秒		31分59秒		41分46秒		55分11秒	
区間(距離km)	第 5 区(4.1075)		第 6 区(4.0875)		第 7 区(4.0)		第 8 区(3.0)	
選手名	佐々木 文華		小林 成美		村上 愛華		高松 いずみ	
チーム順位・記録	5	1:09分17秒	3	1:22分38秒	8	1:35分35秒	3	1:45分39秒
区間順位・記録	2	13分30秒	9	13分21秒	10	12分57秒	1	10分04秒
区間最高記録	13分27秒		12分58秒		12分32秒		10分04秒	
Top通過チーム	神奈川		神奈川		福岡		千葉	
同記録	1:09分05秒		1:22分13秒		1:35分17秒		1:45分34秒	

スタッフ氏名	長野陸協役職
団 長 中條 延太郎	副会長
副団長 内山 了治	理事長
副団長 北島 正孝	駅伝部長
監 督 玉城 良二	副理事長
コーチ 木下 純市	
コーチ 富永 浩一	
小幡 泰俊	駅伝部 コーチ
小山 保高	
竹内 万祐	
横地 京子	
横打 史雄	
平林 哲郎	普及強化委員
トレーナー 野竹 康之	駅伝部トレーナー



男子第 67 回全国高等学校駅伝競走大会 準優勝



佐久長聖高等学校 駅伝部監督 高見澤 勝

昨年 12 月 25 日、第 67 回全国高等学校駅伝競走大会が京都で行われましたが、多くの皆様方のご支援やご協力をいただき、今年度も長野県代表として出場させていただきました。今回は「3 位以内」を目標に大会に臨みました。新チームとして始動した時は、入賞すら厳しいのでは、と思っていましたが、夏の合同合宿をきっかけに選手たちが大きく成長し、秋以降の大会で自信を掴んで今大会を迎えました。レースは、1 区の名取燎太が区間賞の走りを見せ、昨年に続いて本校はトップで 2 区に繋ぎました。2 区の松崎咲人も、1 年生ながらも区間歴代 3 位の好タイムで区間賞でした。3 区中谷雄飛は、留学生の追い上げにも冷静に対応し、区間 3 位ではありましたが、日本人歴代最高記録で走り、ここでもトップで 4 区にタスキを繋ぎました。しかし、4 区でトップと大きく離されてしまい、5 区内田光の区間賞の走りなどで追いつけたものの、2 位でのゴールとなりました。選手たちは素晴らしい走りをして目標を達成し、準優勝という立派な結果を残せたと思います。しかし、2 年前の喜びが溢れた準優勝とは違い、今回の準優勝は悔しさの溢れる準優勝でした。この悔しさは成長の証でもあり、優勝を目指せるチームになってきているということだと思います。

次回大会は「優勝」という目標を選手たちは掲げていますし、多くの方々もご期待下さっていると思います。その選手たちの夢を叶えてあげたいですし、皆様方のご期待にもお応えしたいと思っていますが、まずはしっかりと足元を見て取り組んでいき、今年の 12 月を良い形で迎えらるよう取り組んでいきます。終わりに、今大会を迎えるにあたって、多くの皆様方にご支援ご声援をいただきましたことに感謝申し上げます。これからもご指導ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

場所：京都市西京極陸上競技場付設マラソンコース
(男子全国高校駅伝コース)

【総合】2 位 佐久長聖 2 時間 03 分 16 秒
名取 燎太(3)・松崎 咲人(1)・中谷 雄飛(2)・本間 敬大(2)
内田 光 (3)・相馬 崇史(3)・丸山 幸輝(2)

【区間賞】

第 1 区(10.0km) 名取燎太(3) 29 分 22 秒
第 2 区(3.0km) 松崎咲人(1) 8 分 06 秒
第 5 区(3.0km) 内田 光(3) 8 分 44 秒

女子第 28 回全国高等学校駅伝競走大会 6 位入賞



長野東高等学校

監督 玉城 良二

日頃より、本校陸上競技部駅伝チームの全国高校駅伝出場にあたり、長野陸上競技協会はじめ多くの皆様のご支援をいただき心から御礼申し上げます。お陰様で、五年ぶり二度目の入賞を果たすことができました。

今大会は本校にとって 10 年連続 10 回目の出場という節目の大会にあたり、初出場以来連続出場を繋げて来てくれた選手と今まで支えてくださった多くの皆様への感謝の気持ちがあふれてきました。

今年の 3 年生が入学したときは、力がない者や初心者という状態でしたが、全国高校駅伝入賞に向けて、地道に努力を重ねて力をつけてきた学年です。

その 3 年生が、各自の役割に徹し下級生が気持ちよくレースに臨める雰囲気を作ってくれました。レース前のチーム状況を見て「目標は達成できる」という手応えを得られました。

レースは 3 区の途中まで先頭争いをするという素晴らしいタスキリレーを見せてくれました。結果的に 6 位ではありましたが、中継車を追いかけ、堂々と先頭を走って見えた景色は今までの取り組みが自信となり、今後のチームにとって大きな財産となりました。

大会終了後、新チームは「三位入賞」を目標に、活動がスタートをしました。多くの皆様に様々な場面で支えていただいていることをしっかりと心に留めて、「駅伝王国長野」といわれることに少しでも貢献できるよう、結果で恩返しができるように、毎日を大切に着実に前進したいと考えています。今後も変わらぬご支援とご指導をお願い申し上げます。



期日：平成 28 年 12 月 25 日

場所：京都市西京極陸上競技場付設ハーフマラソンコース
(女子全国高校駅伝コース)

【総合】

6 位 長野東 1 時間 08 分 54 秒 県高校新記録
和田 有菜(2)・松澤 綾音(2)・高安 結衣(1)
村上 愛華(3)・岡村 未歩(3)

【区間賞】

第 1 区(6.0km) 和田 有菜(2) 19 分 14 秒

第 24 回全国中学校駅伝競走大会 男子 5 位入賞、女子 20 位

長野市立川中島中学校 陸上部 駅伝担当 野澤 重典



本校の駅伝チームは、11月3日(木)に行われました第27回長野県中学校駅伝競走大会で男女ペア優勝を果たすことができました。そして、全国中学校駅伝大会への出場切符を獲得しました。男子は2年連続3回目、女子は6年連続6回目の出場権獲得でした。指導してくださっております竹内万祐監督には心より感謝申し上げますとともに、ご支援いただいております皆様に心よりお礼申し上げます。

今年は、選手みんなが「絶対的なエースがいない」ことを十分認識していたので、「1人ひとりが数秒ずつを貯金し、みんなの力を結集させて優勝しよう」と早くから心をひとつにしておりました。まさに総合力で勝負しようとの決意でした。

12月18日(日)に滋賀県で行われた全国大会では、「男女ペア入賞」を目標に全力を尽くしました。結果は、女子が20位、男子が5位入賞という結果でした。女子の



レースは、好調を維持していた1区で出遅れてしまいましたが、それを2～4区の2km区間の選手が必死に追い上げ、アンカーは粘って粘って逃げ切るという展開で

した。入賞を逃した選手たちは悔しく、残念な気持ちでいっぱいなのですが、全力でたすきをつなぐ姿には心から感動し、胸が熱くなる思いがしました。男子は、1区で好位置につけ、2区でさらに上位に進出し、いい流れを作ることができました。3区～5区は先頭集団がめまぐるしく交代する展開となりました。そんな中を常に入賞圏内を維持し、一時はメダル獲得も期待できるほど首位グループに肉薄しました。結果、長野県男子史上初の入賞という成績を収めることができました。選手の必死の思いが伝わる熱いレースでした。

全中駅伝は、強豪チーム・強豪選手が集う大会です。この場を踏めたことは大変貴重な経験であり、選手の心にも一生残ることと思います。これもひとえに皆様の温かいご支援とご協力のたまものと感謝しております。

第24回全国中学校駅伝大会への出場に対しまして、長野・長野市陸協関係の皆様を始め、地域の皆様、各企業様、そして学校関係者など、多くの皆様方から多大なるご支援とご協力をいただきました。重ねて御礼申し上げます。今後とも本校陸上部に対しまして、温かくも厳しいご支援・ご指導をいただければ幸いです。



男 子			女 子		
区(距離)	選手氏名	区間タイム等	区(距離)	選手氏名	区間タイム等
1区(3km)	越 陽汰	9'28"(13/13)	1区(3km)	和田 帆香	10'55"(36/36)
2区(3km)	丸山 拓真	9'19"(2/5)	2区(2km)	和田 真菜	6'59"(11/29)
3区(3km)	丸山 翔平	9'41"(11/6)	3区(2km)	宮澤 実亜	7'18"(19/26)
4区(3km)	塩入 洋弥	9'50"(18/9)	4区(2km)	宮澤 美裕	7'13"(13/18)
5区(3km)	三井 悦志	9'55"(9/8)	5区(3km)	堀内あかり	10'57"(20/20)
6区(3km)	三井 航志	9'32"(3/5)			
男子総合成績 5位(57'45")			女子総合成績 20位(43'22")		
補 員	池田 悠大	10'11	補 員	倉島 美桜	8'14
補 員	岡村 康太	10'19	補 員	淀 小南津	7'51
補 員	上原 鷹宗	10'18	補 員	渡邊 葵	欠場

区間タイム(区間順位/通過順位)

新会長就任式・2016 アワード開催

2月11日(土) 於：長野市 ホテル犀北館

平成28年度(2016年度)の、県陸協「栄章」の受章者を称える、「2016 長野陸協アワード」が、平成29年2月11日に長野市・ホテル犀北館で開催されました。

冒頭、故小坂憲次氏を偲び出席者全員で黙祷。

続いて、2月4日の評議員会・理事会で承認された新会長「萩原 清」氏の就任式をおこなった。

新会長には、伊藤会長代行より、審判キャップとネクタイが贈られ、就任を祝いました。萩原新会長は、小坂前会長の残任期をつとめ、引き続き29年度～30年度の会長も引き受けていただきました。県会議員であり、長野県体育協会副会長というお立場から、27年国体に向けた施設整備等にご尽力いただけることと多いに期待します。



引き続き開催された「2016 長野陸協アワード」には受章者115名(県陸協関係)の内、75名、日本陸連・東海陸協・長野県関係受章者18名のうち9名の受章者の皆さんにご出席いただきました。

長野陸協では、長年「県春季大会」で受章式をおこなってきましたが、昨年よりこの時期にアワード(Athletics Award)として開催しています。

今回の受章式には、遠方より多くの関係者、特に小・中・

高生に出席いただき、盛大な受章式となりました。受章者は以下のとおりです。

◆文部科学省(文部科学大臣表彰)

文科省生涯スポーツ功労章 下川 泰秀(松本)

◆日本陸連関係(※平成28年いわて国体にて表彰)

秩父宮章 下川 泰秀(松本)
 高校優秀指導者章 内山 みのり(長野市)
 中学優秀指導者章 杉村 秀樹(長野市)
 勲功章 荒井 広宙(自衛隊体育学校)
 競技者育成章 萩原 信幸(上田)
 安藤百福記念章 油井 歩(佐久)

◆東海陸協関係(※平成28年8月25日東海選手権にて表彰)

H28 東海陸協章 酒井 譽(飯伊)
 H28 東海陸協章 大川 賢明(塩尻)
 H28 東海陸協章 北原 勲(長野市)
 H28 東海陸協章 中條 延太郎(佐久)

◆長野県関係

教育関係功労者表彰

社会体育功労 浦野 義忠(長野市)
 スポーツ栄誉賞 大迫 傑(ナナイロ・プロジェクト)
 スポーツ栄誉賞 藤澤 勇(ALSOK)
 スポーツ栄誉賞 川元 奨(スズキ浜松AC)

◆長野県体育協会関係

有功章 青山 陸生(松本)
 栄光章 荒井 広宙(自衛隊体育学校)
 栄光章 川元 奨(スズキ浜松AC)
 栄光章 溝口 友己歩(早稲田大)
 勲功章 玉城 良二(長野市)



日本陸連・東海陸協・長野県・長野県体育協会関係受章者のみなさん。



長野県陸協 功労章・審判員功労章・指導者功績章・地域スポーツ振興章受章者のみなさん。

◆長野県陸協関係

功労章 伊東 宣和 (飯水)
 功労章 丸山 孝治 (中高)
 審判員功労章 齊藤 和彦 (長野市)
 審判員功労章 川上 修 (安曇野)
 審判員功労章 井出 誓治 (木曽)
 審判員功労章 中澤 廣幸 (佐久)
 審判員功労章 箕輪 健二 (佐久)
 指導者功績章 小林 至 (飯水)
 指導者功績章 梨子田 昌央 (飯水)
 指導者功績章 小川 裕樹 (長野市)
 指導者功績章 望月 政和 (安曇野)
 指導者功績章 櫻井 奈帆 (諏訪)
 地域スポーツ振興章 峯村 美智子 (長野市)
 地域スポーツ振興章 瀧沢 佳生 (長野市)
 地域スポーツ振興章 松下 善幸 (飯伊)
 地域スポーツ振興章 石井 俊久 (諏訪)

◆勲功章 (*: 2016 年 1 月現在の所属)

清水 彩音 (長野東高) 櫻井 大幹 (上越教大院)
 太田 杏優 (市立長野高) 前田 花奈 (伊那弥生ヶ丘高)
 山崎 萌々子 (長野高専) 山本 嵐 (佐久長聖高)
 西村 涼太 (上田西高) 田中ジェシカ (上田染谷丘高)
 荻原 勇吹 (諏訪二葉高) 片平 大地 (長野吉田 AC)
 佐藤 静香 (新潟医福大) 加藤 詩萌 (長野日大高)
 竹井 温巧 (東海大諏訪高) 内田 光 (佐久長聖高)
 丸山 幸輝 (佐久長聖高) 松澤 綾音 (長野東高)
 高安 結衣 (長野東高) 村上 愛華 (長野東高)
 岡村 未歩 (長野東高) 松崎 咲人 (*塩尻広陵中)
 米山 哲弘 (*佐久長聖中) 松本 陸 (上諏訪中)
 安部公士郎 (原中) 今井 頼人 (辰野中)
 原 惇也 (浅間中) 中津 晴葉 (更北中)
 越 陽汰 (川中島中) 丸山 拓真 (川中島中)
 丸山 翔平 (川中島中) 塩入 洋弥 (川中島中)
 三井 悦志 (川中島中) 三井 航志 (川中島中)

◆優秀選手章

中野 直哉 (早大) 石川 和義 (長野吉田 AC)
 今井 沙緒里 (飯田病院) 溝口 友己歩 (早大)
 中島 未歩 (上田市) 名取 燎太 (佐久長聖高)
 中谷 雄飛 (佐久長聖高) 小野 寛貴 (松商学園高)
 内山 朋也 (長野吉田高) 和田 有菜 (長野東高)
 矢島 風香 (長野東高) 森本 知隼 (松本県ヶ丘高)
 白川 友一 (須坂) 西村 陽杜 (松商学園高)
 柳沢 直生 (松商学園高) 斉藤 巧 (松商学園高)
 神田 来夢 (松商学園高) 細田 あい (日体大)
 玉城 かな (名城大) 大和 千秋 (飯田病院)
 伊東 嵩矢 (市立長野高) 池田 翔紀 (市立長野高)
 児玉 悠作 (市立長野高) 小出 郁弥 (市立長野高)
 春日 千速 (東海大) 井上 錬 (佐久長聖高)
 關 颯人 (佐久長聖高) 矢野 圭吾 (日清食品グループ)
 湯澤 ほのか (名城大) 塩島 亮太 (明大)
 松井 将器 (東工大院) 池田 生成 (青学大)
 内山 成実 (東学大) 小野 美紗 (日女体大)
 中山 昂平 (中京大) 戸谷 真理子 (長野吉田 AC)
 嶺村 鴻汰 (モンテローザ) 原 翔太 (スズキ浜松 AC)
 宮坂 楓 (ニッパツ) 川元 奨 (スズキ浜松 AC)
 本間 敬大 (佐久長聖高) 相馬 崇史 (佐久長聖高)

◆奨励章

小坂 晃大 (仁科台中) 木村 暁仁 (女鳥羽中)
 北沢 栞 (三郷中) 唐澤 花実 (赤穂中)
 小林 涼真 (芦原中) 柳澤 祐希 (芦原中)
 原 泰三 (芦原中) 藤村 知季 (芦原中)
 石田 優音 (堀金中) 中島 淳公 (堀金中)
 大月 洸典 (堀金中) 一志瑠衣斗 (堀金中)
 那須野寛生 (飯島中) 樋口 虹夏 (波田中)
 唐澤 純夏 (赤穂中) 中嶋 杏彩 (赤穂中)
 小原 茉莉 (赤穂中) 小林 弥希 (丸ノ内中)
 深澤あまね (旭町中) 富山 萌衣 (坂城 JAC)
 宮原 凜成 (坂城 JAC) 宮下 留花 (坂城 JAC)
 牧内 愛実 (坂城 JAC) 平谷 紗菜 (朝日 SUN)



天皇盃第 22 回都道府県対抗男子駅伝 V7 祝賀会開催

2月11日(土)長野市ホテル犀北館で、「第22回都道府県対抗男子駅伝競走大会」で見事7度目の優勝を果たした長野県男子駅伝チームの祝勝会が開催されました。招待者、選手、チーム関係者約150名の出席をいただき、盛大に開催されました。

長野県教育長 原山隆一様はじめ、県陸協協賛各社の皆様、また、広島でお世話になった、「在広島信州県人会」はじめ、近畿、京都、名古屋の各県人会の皆様も、遠方からかけつけて頂きました。

万雷の拍手の中、選手団が優勝旗を掲げて入場。伊藤利博選手団長からうれしいV7、優勝の報告、高見澤勝監督から優勝チームの選手が紹介されました。



天皇盃



広島市の西田稔様から水墨画が贈呈された



乾杯 衆議院議員 小松裕様

その後、長野県教育委員会教育長 原山 隆一様、信濃毎日新聞社代表取締役社長 小坂壮太郎様よりご祝辞をいただき、衆議院議員 小松 裕様から乾杯のご発声をいただき、祝宴に入りました。

22回の大会で7度の優勝は、もちろん最多。出席者も、その快挙にふれた明るい会話がはずんでいました。

多くの方のご援助ご支援、また長野県民の多くの応援により成し遂げたV7、高見澤監督はじめチームスタッフは、来年の優勝をかたく誓っていました。

急な祝宴の開催に、かけつけて頂きました会員の皆様、本当にありがとうございました。



左から伊藤団長、北島駅伝部長、高見澤監督、牛山コーチ、帯刀コーチ、名取選手



高見澤監督 成績報告



競技者・監督の皆さんへ 2017 年度競技規則修改正のポイント 【競技運営委員会】

○第 162 条 6 スタート [注意]



スタート動作に関わる文言修正 「離れた」→「離れようとしている」

⇒「今、まさに離れようとしている」動きも含めて不正スタートと判断する。

基本は「競技者が少しでも早く動作を開始したとスターターが判断したときは不正スタートとなる」。

[注釈] が加わり、号砲までの間に i) 静止することなく、動いたままスタートした ii) 手が地面から、あるいは足がスターティングブロックのフットプレートから離れた ことを確認した場合、不正スタートとなることが明確化されました。

★ポイントは「号砲までに体が一旦動いても静止したか」「号砲までに手が地面に、足がフットプレートに接していたか」ということです。号砲前に動き出して止まらないスタートは不正スタートとなり、失格となります。また、SIS を使用している場合、機器が正常に作動していないと判断された場合を除き、その検知された値に基づいた判定（反応時間が 0.100 秒未満は不正スタート）がされます。

○第 180 条 3 (c) [国内]

棒高跳の [国際] 扱いであったディスタンスマーカーが、陸連主催、共催大会で適用となります。

⇒ゼロラインから 2.5m から 5.0m の間は 0.5m ごとに、5m から 18m の間は 1m ごとに適切で安全なディスタンスマーカーが、陸連主催、共催大会で設置されます。なお、他の競技会でも主催者の判断で設置される場合もあります。

○第 181 条 8 (b) 垂直競技の順位

同じ高さの時の順位決定の手続きで無効試技のカウントが、最後の高さの無効試技まで含まれます。

⇒同成績の場合、最後の高さの試技数が少なかったものが上位になります。それでも決まらない場合、従来は「最後に越えた高さの前までのすべての試技」から無効試技数をカウントしていましたが、「最後に越えた高さを含むすべての試技」に変更になります。（この変更に伴い順位が変わることはありません。）

○第 187 条 4 (a) 投てき種目における助力

2 本以上の指をテープで巻くだけでなく、貼り合わせることも助力となる。

また、テープは手や指についていなければならない。

⇒それぞれの指が独立して動かせない状態にしてはいけません。また、テープと手の間に隙間ができるような使い方もしてはいけません。

○第 230 条 競歩競技

残り 100m からフィニッシュまでの間で競歩主任が単独で失格にする競技会が拡大されます。

⇒陸連主催、共催の競技会および男女混合競技は競歩主任が単独で失格にする権限を持っていましたが、そのような競技会が、条件が整えば拡大されます。現在、県内ではそのような予定はありません。

○競技会における広告および展示物に関する規程

大学生までのチーム名は大きさに関係なく表示できるが、それ以外は高さ 5cm 以内とする。

⇒高さ 4cm 以内 40 cm²と定められていたが全く守れていないのが現状。したがって、過去の規定に一時的に戻すもの。将来的には再び「高さ 4cm 以内 40 cm²」と定められる予定です。

※しかし、IAAF 主催大会やラベリング大会（ゴールデングランプリ・長野マラソンでの適用対象選手（エリート選手））では、高さ 4cm 以内 40 cm²が適用されます。

○その他、競技運営上の手順の変更

スタート時の注意は口頭で行いグリーンカードは提示しない。

⇒その後、不正スタートでなかったことを示すため、全競技者に対しグリーンカードが提示されます。

トラックでレーンに余裕があっても、次ラウンド進出はランキング 8 番まで。

⇒例えば 3 組 2 着+2 で次ラウンドへ進出の場合、3 組で 2 着が同着となった時、順位で進出できる者が 7 名となり、レーンに余裕がある場合、タイムで進出できる者が 2 名で計 9 名の運用をしておりました。しかし、順位で進出できる者が同着で増えた場合、タイムで進出できる者の枠を減らして（先程の条件だと 1 名）8 名が次ラウンド進出となります。なお、タイムで進出できる枠の最後の 1 人が 0.001 秒で同着の場合、レーンに余裕がある場合は 1 名増やして 9 名が進出できるものとします。

やり投において、着地側の判定員の旗振りは廃止します。

⇒IAAF の指摘により。着地側の判定員も判定しますが、投てき側の判定員が有効・無効を示します。



詳細については、審判講習会資料もしくは 2017 年度版陸上競技ルールブックを参照されたい。

文責：青柳 智之（日本陸上競技連盟技術委員・長野陸上競技協会競技運営委員長）

主要大会結果(H28年12月25日～H29年3月17日)

◆2017 日本ジュニア室内陸上 大阪大会

期日：平成 29 年 2 月 4 日～5 日 場所：大阪城ホール

【男子】▶ジュニア 1500m ①大月 海世 3 分 58 秒 95

◆第 100 回日本陸上競技選手権 20km 競歩

期日：平成 29 年 2 月 19 日

場所：六甲アイランド甲南大学周辺コース

【女子】

⑦大和 千秋 1 時間 35 分 58 秒 県新記録

※15km(途中記録) 1 時間 11 分 38 秒 県新記録

◆第 2 回全国中学生クロスカントリー選手権大会

期日：平成 29 年 2 月 19 日 場所：千葉市「昭和の森」

【男子】▶3km ⑧伊藤 大志 9 分 14 秒

◆第 32 回 日本ジュニア陸上競技選手権大会
クロスカントリー競走

期日：平成 29 年 2 月 25 日

場所：国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース

【男子】▶ジュニア 8km ①中谷 雄飛 24 分 02 秒

長野陸協 会議録

◆第 27 回理事会 平成 29 年 2 月 4 日(土) 10:00～12:45

開催場所：松本市アルウィン 出席者 理事 23 名 監事 3 名

議案第 1 号 日本陸連栄章候補者追加申請他について

資料No.1に基づき中條栄章審議特別委員会委員長より提案があり承認された。

議案第 2 号 平成 28 年度各委員会中間事業報告について

各委員会、部会より報告があった。最終報告は 3 月 31 日までのもので行うよう指示があった。質問はなく承認された。

議案第 3 号 平成 28 年度決算中間報告について

別紙資料No.3に基づき、経理部長より 12 月 31 日までの報告が行われた。

議案第 4 号 H28 年に樹立された長野県の記録の承認について

瀧沢記録部長より報告された。競歩、駅伝の記録の一部表記の訂正を行い承認された。

議案第 5 号 70 周年記念事業決算報告

黒岩経理部長より報告があった。

議案第 6 号 登録料、データバンク料の改正について

登録料、データバンク料の改正について内山理事長より説明があり、賛成多数で原案通り承認された。

議案第 7 号 専門・特別委員会規程の一部改正について

北原法制委員長より提案され、原案どおり承認された。

議案第 8 号 長野県の記録公認要領の一部改正について

記録部長瀧沢より提案され原案どおり承認された。

議案第 9 号 平成 29.30 年度役員

別紙資料No.9に基づき、理事長より報告があった。

議案第 10 号 平成 29 年度事業計画

各委員会より提案があった。議案は原案通り承認された。

議案第 11 号 平成 29 年度予算案について

黒岩経理部長より提案があった。決算が終わっていないためこの予算案で承認された。

議案第 12 号 平成 29 年度競技日程について

横打競技部長より追加・訂正の提案があった。修正を含めて承認された。

議案第 13 号 公認審判員資格取得並びに昇格推薦内規の変更(追加)について

青柳競技運営委員長より提案があった。文言について、法制委員会で検討することで承認された。

その他

・長野陸協の協賛スポンサー契約について

・松本マラソンについて

2. 報告事項

(1) 会報第 159 号について(総務委員長より)

(2) 今後の会議等日程について(総務委員長より)

(3) 東海陸協常務理事会報告(理事長より)

長野陸協 事務局からお知らせ

長野陸協登録料等の改訂について

役員費、審判登録費の級別格差、大学・高校・中学生並びに一般競技者の登録料、審判取得・昇格経費について、これまでの課題を解決すべく 2016 年 11 月理事会で検討し、その原案を地区で検討していただき、2017 年 2 月評議員会で議決していただきました。

H29 年度からの長野陸協登録料等の改訂概要は、以下のとおりです。

役員(理事・監事)及び顧問参与、専門委員の負担金を廃止し役員等の経済的負担を軽減しました。審判員登録料は、級別による登録費の格差解消をはかり、昇級による経済的負担を軽減し一人でも多く A 級・S 級に昇格していただく為に、一律 3,500 円としました。競技者登録料は、一般・大学生については他県の状況を参考に一般 2,000 円・大学生 1,500 円とし、中学生はこれまでの県陸協負担及び県内の他団体の登録費を参考に 500 円、高校生は従来通り 1,000 円としました。新たに、登録団体としての組織の確認と責任を明確にする意味で団体登録料 10,000 円を新設させて頂きました。

今回の長野陸協登録料等の改訂は、一般競技者並びに中学生の負担増加になってしまいますが、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

お悔やみ (2016/4/1～2017/3/17)

陸上競技並びに本協会発展のために、長年の多大なるご尽力に感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	支部	逝去日	享年
依田 邦夫	長野市	2016. 5. 20	92
原 光博	木曽	2016. 7. 5	69
小坂 憲次	長野市	2016. 10. 21	71
高橋 恒和	長野市	2017. 2. 3	88

編集後記

いよいよ平成 29 年度がスタートします。平成 28 年度は、会報 157 号・158 号 159 号と 3 回発行することができました。会員皆様を読みたくなるような会報を心がけ、いつもギリギリの発行でした。原稿をご依頼した際には、気持ち良くお受け頂き、有り難く思います。来年度も 3 回を予定しています。発行予定日に余裕を持てるように頑張りたいと思います。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

<内山 良一>